

やめ、活動再開!

NSN会長 武藤 哲

令和2年1月15日の最初のコロナ感染者確認後、4月7日に緊急事態宣言が発令され、ねりまシニアネットワーク(以下、NSN)も昨春は総会(4月)の延期、ねりまシニアセミナー(5月)の中止に追い込まれました。その後も、サマーフェスティバル・セカンドライフ研究会・講演会等すべて中止するほかなく、散々な1年となりました。そうした中で、NSNの四半世紀の活動をまとめた「NSNの歩み」の編纂と配布、会員をつなぐ唯一の手段となった会報の存在は、闇の中の一条の光といえるものでした。更に今年も、4月25日(土)3度目の緊急事態宣言が出されて6月20日まで延長されたため、5月30日のシニアセミナーも再び中止を余儀なくされました。

しかし、今年は去年と違います。5月からのワクチン接種が順調で、我々高齢者の感染リスク・重症化リスクが大幅に低下していると期待できる環境が整ってきました。これを契機、NSNは6月

26日に総会を開いて今年度の活動計画と予算を決定、いよいよ活動再開です!

まずは最重要行事であるシニアセミナー。コロナ禍で地域活動の大事さが意識されたのか、40名超の方から申込みがあり、セミナー委員はその思いに応えようと、会場確保に尽力いたたく4つの同期会と講師の全面的な協力を得て、年内開催に全力で取り組む構えです。7月15日にはセカンドライフ研究会が再開され、ミニフリックも始まっています。新たな企画もありそうです。フェスティバル・講演会は、再開に向けてゼロから検討を始める予定で、皆さんの斬新なアイデア・提案をお待ちしています。感染リスクが皆無ではないためそれぞれの判断となりますが、縮こまった身体と心を少しずつほぐしながら同期会とNSNの活動を再開する1年にしたいものです。

NSNで紡いできた折角の縁、一緒に楽しく活動しましょう!今年度もどうぞよろしく願っています。

【編集後記】

今号は、総会特集として、別刷りにその要約を掲載しました。これから各活動が再開される事を期待します。(〇)

【睦会「写真の集い」写真展】

6月初旬、大泉学園ゆめりあギャラリーで写真展が行われました。ご存知のように、昨年は新型コロナの影響で、記念すべき20回目が開催できず、冊子に纏めるのみとなりました。それ故、写真の集い会長の小槻さんも迷われたそうですが、21回目はいつも通の会場を借りての開催となりました。

16名の会員から63点が出品、遠出を控えていた時期でしたので、写真を眺めていると小旅行をしているような楽しい時間が過ごせました。私が行った日には「区報をみて、家から近いので初めて写真展に来ました!」と話している方がいて、嬉しくなりました。11~12月に、はつらつ豊玉センターでギャラリー展示の予定です。皆さま、ぜひ一度「写真の集い」の方々の作品をご覧ください。

睦会 会長

松岡直子



大泉学園ゆめりあホール キラリー 睦会「写真の集い」第21回写真展 令和3年6月1日(日)

◆ 睦会「写真の集い」問合せ先 ◆
yuki.otsuki0928@gmail.co

《グッドニュース》

今年のゴルフ界で一番の出来事は、マスターズ・トーナメントで松山英樹選手が優勝したことです。あの有名なニクラウスが、松山選手のことを「尾崎将司と青木功を合わせた能力を持っている」と絶賛していました。世界の四大トーナメントでの日本人の優勝は初めてで、日本のゴルフファンにとっても大いに嬉しいことでした。

最後のホールで、キャデイがフラッグを差し込んだ後、コースに向かって一礼したことを、当日のTVは日本人の礼儀正しさと大変好意的に放映していました。

この一週間前、オーガスタナショナルGCの女子アマチュア選手権で、日本人の高校生が優勝しており、2年前の全英女子オープンで渋野日名子選手の優勝、今年6月全米女子オープンで笹生優花選手の優勝と、日本人女子の活躍も大したものですよ。

5月、光が丘の区立四季の香ローズガーデンが拡張オープンしました。

ハーブガーデンも併設されています。2年後には、立派な花が咲きそろうそつで、大いに期待したいものです。既存のガーデンも、たくさんの花が見ごろを迎えていますので、出かけてみてはいかがでしょう。

八展会 山本猛



【粘土芸を趣味として】

粘土芸に魅せられたのは、今から40年も前に「パンの花」の展示を見て、すごく興味を持ち、協会に参加したことがきっかけとなりました。それからは、様々な種類の粘土を素材とした工芸に携わってきました。

自然乾燥・焼く粘土・純銀の粘土等です。創作する作品も、花・アークセサリー・おしゃれな雑貨・人形・可愛い動物など多岐に亘ります。

粘土に触れていると、心が安らぎ出来上がった作品に心を奪われ、自分自身が成長していると感じました。色々な人との出会いで、区の教室や老人ホーム、敬老館や児童館、小学校や中学校等で指導をしてきました。そして現在も続けております。

「教室が楽しい」「作品が可愛い」等と云われると、嬉しくて時間を忘れてしまいます。自宅教室でも、作品を作りながら友達や仲間とお茶を飲んだり、様々な事を語り合ったりし

て楽しんでいきます。

私は手を動かし、口を動かし、そして「素敵」とか「可愛い」と言ってもらえる感情を持つ事が、老後の健康維持に必要なのではないかと考えています。これからも「作る事が楽しい」を、ずっと続けていけたらと思っています。

最後に、左記の作品は今年の3月に開催された、練馬区手工芸作家展に出品したものです。幸いにも、今まで創作した作品群に対して練馬区長賞を戴くことができました。これを機に色々な素材を使った新たな作品にチャレンジしたいと思っています。

一三の会 竹田 恭子

